「落花生」生育情報（第１報）

～　基本技術を励行して収量増加！　～

令和元年7月１９日
千葉県農林水産部
生　産　振　興　課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

１　生育状況

は種時期の５月下旬から６月上旬にかけ、気温は高く、晴れた日も多く、発芽や発芽直後の生育は順調に推移しました。しかし、７月に入ってからは、気温は低く、日照時間は少なく、降水量は多くなっています。

作況調査ほ及び落花生研究室のほ場では、は種時期による差はあるものの、各品種ともに、は種日から開花期までの日数は長くなっており、最長分枝長及び地上部乾物重は平年を下回っています。

表１　作況調査成績（７月１０日調査）※対比は日数、又は平年比

品種名	年次	は種日	最　長 分枝長 (cm)	地上部 乾物重 (g/㎡)
千葉半立	本年	５月３１日	１１．２	２８．９
	平年	６月２日	１３．０	６３．９
	対比	２日早い	８６%	４５%
ナカテユタカ	本年	５月２１日	１６．１	１０６．０
	平年	５月２１日	１７．９	１３４．８
	対比	同じ	９０%	７９%
おおまさり	本年	５月２９日	１９．２	５７．９
	平年	５月３０日	２０．９	７９．９
	対比	１日早い	９２%	７２%
千葉Ｐ114 号 （Ｑなっつ）	本年	６月４日	１１．０	３２．０
	平年	６月３日	１４．２	７９．０
	対比	１日遅い	７７%	４１%

＊本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取地区、「ナカテユタカ」は千葉・海匝・君津地区、「おおまさり」は千葉・印旛・君津地区、「千葉Ｐ１１４号」は千葉・印旛・香取・長生地区。
＊平年値は、平成２４年から３０年（過去７年間）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「千葉Ｐ１１４号」のみ平成２８年から３０年（３年間）の平均。
＊対比はラウンド処理をしているため、小数点以下が合わない場合がある。

表２　（参考）落花生研究室（八街市）の作況（本年の値、７月１０日調査）

	品種名	開花期	最　長 分枝長 (cm)	地上部 乾物重 (g/㎡)
標播 （５月２０日 播種）	千葉半立	７月　１日（１日遅い）	１８．８（87%）	９９．０（74%）
	ナカテユタカ	６月２９日（１日遅い）	１３．７（72%）	７８．５（62%）
	おおまさり	６月２８日（１日遅い）	２２．４（71%）	５４．４（59%）
	千葉Ｐ114 号	６月３０日（２日遅い）	１５．４（81%）	８１．５（64%）
晩播 （６月１２日 播種）	千葉半立	調 査 中	７．７（70%）	１３．３（42%）
	ナカテユタカ	７月１９日（５日遅い）	８．７（85%）	１４．９（45%）
	おおまさり	７月１９日（５日遅い）	１０．８（74%）	９．２（37%）
	千葉Ｐ114 号	調 査 中	８．２（83%）	１４．９（45%）

＊落花生研究室の４品種の栽植密度は、「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「千葉 P114 号」は 5,128 株/10a、「おおまさり」は 2,564 株/10a。

注）カッコ内は、平成２８～３０年の平均値対比を示す。

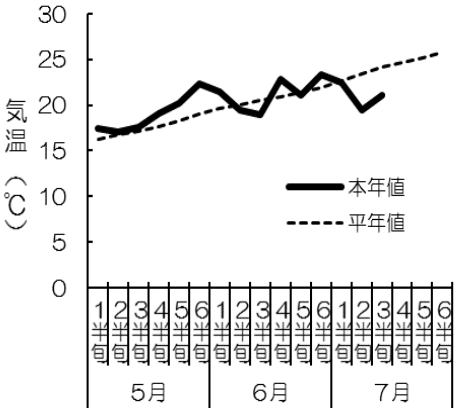

図1　気温の推移（アメダス、佐倉）

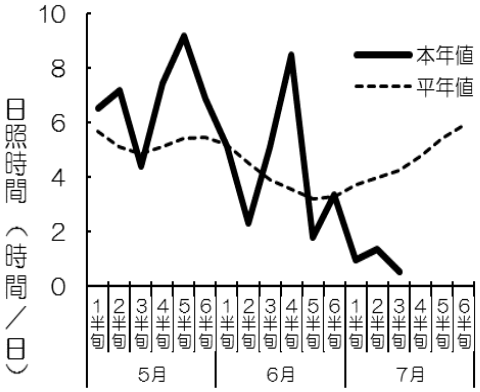

図2　日照時間の推移（アメダス、佐倉）

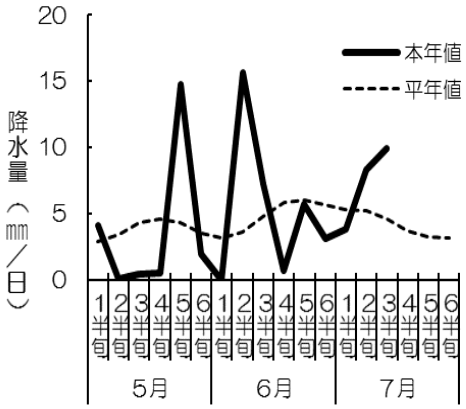

図3　降水量の推移（アメダス、佐倉）

２　これからの管理のポイント

（１）中耕・培土と石灰施用

○ 中耕・培土を行うと、子房柄が地中に侵入しやすくなります。開花期に実施しましょう。

○ 石灰施用は莢実の充実を促します。培土時に合わせて施用しましょう。

施用量の目安：苦土石灰（または消石灰）４０～６０ｋｇ／１０ａ

３　病害虫の早期発見・早期防除を徹底しよう！

（※）農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

「茎腐病」　茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。発生が認められたときは、ほ場には**トップジンＭ水和剤、ベンレート水和剤**を散布し、被害株はすぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出し処分しましょう。

薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンＭ水和剤	1500 倍	100～300L/10a	収穫７日前まで	４回以内
ベンレート水和剤	2000 倍	100～300L/10a	収穫７日前まで	４回以内

「白絹病」　高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され白い菌糸が密生し、やがて発育不良となり、枯死します。例年発病するほ場では、**フロンサイド粉剤**を株元に散布しましょう。発病した場合は、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出します。

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
フロンサイド粉剤	20kg/10a	収穫45日前まで	１回

「褐斑病」　葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。本病は発生初期の薬剤防除効果が高いので、発生が見られたら早期に**トップジンＭ水和剤、ベンレート水和剤**等の薬剤を散布しましょう。

薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンＭ水和剤	1500～2000 倍	100～300L/10a	収穫７日前まで	４回以内
ベンレート水和剤	2000～3000 倍	100～300L/10a	収穫７日前まで	４回以内

茎腐病・白絹病は、連作を避け、他作物と輪作して、被害の軽減に努めましょう！